

石見銀山学習の取り組み

現状と今後の課題

大田市教育委員会

1. はじめに

大田市は島根県の中央部に位置する、人口約3万2千人の町です。北は日本海に面し、平野部は狭く、南は中国山地へと続きます。世界遺産「石見銀山とその文化的景観」を擁しているほか、大山隠岐国立公園に含まれる「三瓶山」、日本遺産「石見の火山が伝える悠久の歴史」があります。

市内には小学校が15校、中学校が6校あり、すべての学校で世界遺産の石見銀山にふれる石見銀山学習が行われています。

2. 教育目標

大田市の教育目標は、平成27年度に策定された大田市教育ビジョンで示されました。その中で石見銀山学習は、児童・生徒たちが世界遺産である「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値や意義にふれ、地域に誇りをもつことを目標としています。大田市では、石見銀山学習＝世界遺産学習と位置づけ、ESDの理念を踏まえた学習を通して、子どもたちが「地域と未来を見据えつつ、自ら課題解決に取り組む」ことを目指しています。

3. 教育委員会・学校での取組

石見銀山学習は当初、市内の子どもたちに必ず一度は石見銀山の現地を訪れてほしいという願いから始まりました。子どもたちが石見銀山現地へ行くためのバス代等は、石見銀山基金という寄付金等の積立金を原資としています。

小学校の石見銀山学習では、大久保間歩という限定公開の採掘坑を見学する学習が定番化しつつあります。大久保間歩見学では、石見銀山ガイドの会のガイドが案内につき、坑道内をヘッドライトの明かりを頼りに見学します。大久保間歩は一度に見学できる人数に制限があるため、龍源寺間歩という一般公開されている坑道跡や町並みを見学する学習コースとすることもあります。

その一方、地域の特色を活かした学習を行う学校も出てきました。大田市東部に所在し、石見銀山遺跡からは20km離れた朝波小学校では、毛利元就をかくまった逸話のある寺を訪れ、住職さんからお話を聞く学習を行いました。その寺には元就から拝領して袈裟に仕立て直したとされる「福田衣」という着物が伝わっています。石見銀山の現地を訪れるだけでなく、地元に残る文化財についても学び、守り伝えている方々のお話を聞くことで、地域への興味関心を高め、愛着を育てることが期待できます。世界遺産を切り口として、地域へ眼差しを向けることのできる学習例といえます。

中学校では、石見銀山遺跡を擁する大森町がどのように地域や文化財を維持しているのかを学ぶことで、自分たちの暮らす地域を持続させるにはどのようにしていけば良いか、をテーマにする学校が増えてきました。大森町には、世界遺産地内に本社を置く大手企業が二社あり、いずれの会社も県外からのUIターン者の雇入れや空き家の改修と活用、大森町での暮らし方や文化活動の提案を行ったりしています。

市内でもいち早くその学習を始めたのが、石見銀山遺跡から25km離れた三瓶町の北三瓶中学校

です。北三瓶中学校は生徒数が 13 人という小さな学校です。人口の増えている大森町の取組を、人口減少に悩む石見銀山から離れた地域の学校で学び、中学生の視点から地域に還元しようという学習に取り組んでいます。

4. おわりに

先述のとおり、石見銀山学習は当初、市内の児童生徒に一度は必ず石見銀山を訪れてほしいという願いから始まりました。石見銀山基金を活用することで、市内の児童生徒が必ず石見銀山の現地を訪れる仕組みはできました。しかし、石見銀山へ行くことがなれば目的化しており、学習内容が間歩（坑道跡）見学などに固定化してしまっている側面もあります。児童の感想を見ても、間歩のインパクトに関するものが多く、世界遺産にかかわるヒトやコトまで掘り下げたものは少ないのが現状です。もちろん現地の様子を五感で体験することも必要ですが、ESD や SDGs の視点から学習内容を構築し、児童生徒の視野や思考を広げ、記憶や印象にしっかりと残るものにしていくことが課題といえます。

- ①余白は上下左右 20mm です。
- ②本文は MS 明朝 11P です。
- ③英字は半角で入力してください。
- ④数字は 1 桁の場合は全角で、2 けた以上の場合は半角で入力してください。
- ⑤句読点は「、（全角）」「。（全角）」で入力してください。
- ⑥枚数は A4 で 2 枚です。
- ⑦吹き出し等を使用する場合も、フォント等は本文と同じです。
- ⑧写真には、原則としてキャプションを付けてください。
- ⑨ホームページに掲載しますので著作権や肖像権などの利害関係者の問題がないものを利用してください。